

練馬区の将来像を考える区民懇談会

健康福祉分野分科会

第2回 議事概要

日時：平成19年9月25日（火）18:30～20:30

場所：練馬区役所東庁舎6階 603会議室

出席者（50音順）

秋元和子、井戸公近、伊部美佐子、岩月裕美子、岩村美妙、大垣喜久江、片岡豊子、金子禎子、河本道雄、木村昭彦、黒田雛子、小林幸江、齋藤洋、酒井政子、戸田了達、中島加代子、林真未、増田時枝、三浦亜紀、宮下智行、本橋隆、本橋恵、森下叔彦

1. 区事務局より連絡

－事務局（区）から、議事概要の取り扱い及びホームページ等での公開方法、自己紹介シートの取り扱い等について説明した。

2. 配付資料の概要について

－コーディネーターの坂本氏から、配付資料について説明した。

3. 討議

（1）本日のプログラムについて

－コーディネーターの坂本氏から、本日のプログラムについて説明した。

（2）個別作業（将来イメージについて考えてみよう）

－配付された将来イメージシートに、「練馬区の平成30年代初頭（今から約10年後）の将来イメージ」と「その理由」を記入し、各自1分程度の発表を行った。発表された将来イメージの概要は以下の通り。

－詳細は別紙（「第2回健康福祉分野分科会 将来イメージ整理結果」）参照

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・子どもからお年寄りまで安心して（4名）・子育て（2名）・地域の相談ステーション（7名）・高齢者が安心して暮らせる（4名）・ノーマライゼーション／障害者の理解（3名）・歯科医療（1名）・緑や風（1名）・行政の柔軟性・効率性（1名） |
|--|

ーこれらの分類結果をもとに以下の3つのテーマを設定し、これらの中から、各自が後半のグループ別討議で参加するグループを選んだ。

- | |
|---|
| *「地域の相談ステーション」グループ
*「子どもからお年寄りまで安心して」グループ
*「高齢者が安心して暮らせる」グループ |
|---|

【各グループ参加者（50音順）】

*「地域の相談ステーション」グループ

：伊部美佐子、岩月裕美子、岩村美妙、大垣喜久江、金子禎子、河本道雄、小林幸江、中島加代子

*「子どもからお年寄りまで安心して」グループ

：秋元和子、井戸公近、片岡豊子、黒田雛子、戸田了達、林真未、三浦亜紀、宮下智行

*「高齢者が安心して暮らせる」グループ

：木村昭彦、酒井政子、齋藤洋、増田時枝、本橋隆、本橋恵、森下叔彦

（3）グループ討議（将来イメージを実現するための大事な視点とは）

ーグループ討議の進め方について、コーディネーターから説明した。

【討議】

○委員

・話し合いが大切である。誰か1人が、話し合いの結果をまとめた方が、より話し合いの時間を確保できるのではないか。

○坂本コーディネーター

・1人がまとめていくとその人のまとめ方に偏る恐れがある。まだ2回目の会議なので、できるだけ多くの意見が引き出され、複数の視点が抽出されることが大切であると考えている。

○委員

・将来イメージは前半に記述した委員個別の将来イメージではなく、個別将来イメージに基づき設定された3つの将来像イメージという理解でよいのか。

○坂本コーディネーター

・そのようなご理解でよい。本来であれば委員個別の将来像イメージをまとめていくための議論も必要だと思うが、今回は時間も限られていることから3つのテーマに基づく将来イメージをもとに作業をお願いしたい。

ーグループに分かれ、各自、「将来イメージを実現するための大事な視点」をポストイットに記入した。記入したポストイットをグルーピングしながら、グループごとに、5～6つの「将来イメージを実現するための大事な視点」を導き出した。各グループがとりま

とめた視点は次の通り。

－詳細は別紙（「第2回健康福祉分野分科会 グループ討議結果」）参照

＜「地域の相談ステーション」グループ＞

- *地域力、地域の相談窓口
- *自己実現
- *“場”づくり
- *緊急対応“行政の限界”
- *行政との協働

＜「子どもからお年寄りまで安心して暮らせる」グループ＞

- *意識へ向かう
- *制度改革で
- *方法、アクションプラン
- *まちづくり
- *教育的アプローチ

＜「高齢者が安心して暮らせる」グループ＞

- *地域と支えあい
- *介護者勉強会
- *医療の充実
- *施設の充実
- *障害者福祉施策
- *貧困問題

4. その他

一次回以降の討議の進め方について、コーディネーターから説明した。

○坂本コーディネーター

- ・今回のワークショップの狙いは、ただ意見や提案を言いつ放しにするのではなく、それらをまとめていく部分まで担っていただく点にある。このため、限られた時間の中で、1回1回の成果をまとめていく必要があり、今後もポストイットや模造紙に記入してもらった作業を行っていく予定である。ただし、議論の進め方やまとめ方については今後も積極的に提案していただきたいと考えている。

(以上)